

関西医科大学内科専門研修プログラム



関 西 医 科 大 学

関西医科大学内科専門研修プログラム

目 次

＜プログラムの概要＞	2
1. 関西医科大学内科専門研修プログラムの概要	2
＜内科専門研修プログラム全般に関する説明＞	2
2. 内科専門医制度の理念と内科専門医の使命	2
3. 内科専門研修の目標	2
4. 内科専門研修の方法	5
5. 内科専門研修の評価	5
6. 修了判定のプロセス	6
7. 専攻医の就業環境	6
8. 内科専門研修プログラムの評価	6
9. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修	7
10. 研修プログラムの管理運営体制	7
＜関西医科大学内科専門研修プログラムに関する説明＞	8
11. 関西医科大学内科専門研修プログラム施設群概要	8
12. 専攻医の募集と採用方法	9
13. モデルプログラム・週間スケジュール	10
14. プログラム管理委員会委員・研修委員会委員	12
15. 関西医科大学内科専門研修プログラム施設群紹介	13

1. 関西医科大学内科専門研修プログラムの概要

本プログラムは基幹施設として関西医科大学附属病院（大阪府枚方市）、連携施設として関西医科大学の他の2つの附属病院（関西医科大学総合医療センター（大阪府守口市）、関西医科大学香里病院（大阪府寝屋川市））を含めた28病院、合計31の病院により構成される内科専門研修プログラムです。3年間で内科専門医としての基本的かつ総合的な臨床能力獲得はもちろんのこと、地域医療に関する研修や、内科各領域の subspecialty 研修など多様な研修により内科専門医の育成をおこないます。

2. 内科専門医制度の理念と内科専門医の使命

2-1：内科専門医制度の理念

本制度における専門研修の基本理念は、指導医の適切な指導の下で、カリキュラムに定めた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得することです。

2-2：内科専門医の使命

内科専門医の使命は、疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて市民の健康に積極的に貢献することです。そのためには、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供することが必要になります。

3. 内科専門研修の目標

3-1：専門研修後に求められる成果

内科専門医に求められる役割は多岐にわたります。

- (1) 地域医療における内科診療医（かかりつけ医）
- (2) 内科系救急医療の専門医
- (3) 病院での総合内科専門医
- (4) 総合内科的視点を持った subspecialty 領域専門医

など状況に応じて適切な対応をすることが求められます。

3-2：経験すべき症例（「研修手帳（疾患群項目表）」参照）

専門医が研修・登録する症例は15領域に分類され、各領域の疾患はさらに複数の疾患群に分けられており、15領域で合計70疾患群になります。経験した症例は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。外来症例は登録症例全体の1割まで含めることができます。各年次の登録目標数は以下の通りです。

- (1) 専門研修1年修了時：20疾患群（60症例）以上
- (2) 専門研修2年修了時：45疾患群（120症例）以上
- (3) 専門研修3年修了時：56疾患群（160症例）以上

各領域において経験が必要な疾患群の数とあわせて以下の表に示します。

	領域	疾患群数	1年修了時	2年修了時	3年修了時	病歴要約
			各領域で最低限経験が必要な疾患群数			
1	総合内科I	1		1		2
2	総合内科II	1		1		
3	総合内科III	1		1		
4	消化器	9		5以上		3*1
5	循環器	10		5以上		3
6	内分泌	4		2以上		3*2
7	代謝	5		3以上		
8	腎臓	7		4以上		2
9	呼吸器	8		4以上		3
10	血液	3		2以上		2
11	神経	9		5以上		2
12	アレルギー	2		1以上		1
13	膠原病	2		1以上		1
14	感染症	4		2以上		2
15	救急	4		4		2
	合計	70		41		26
	必要疾患群数		20以上	45以上	56以上	
	必要症例数		60以上	120以上	160以上	29*3

*1「消化器」「肝臓」「胆・膵」の3疾患群の症例が1例ずつ含まれていること

*2「内分泌」「代謝」の症例がそれぞれ1例以上含まれていること

*3 15領域26症例に外科紹介症例2例、剖検症例1例を加えた合計29症例

病歴要約は、1年時修了時に10例以上、2年時修了時には29例すべて登録します。登録された病歴要約は査読され、改訂を求められることもあります。初期研修中の症例も一定の条件をみたせば（必要症例数160例のうち80例まで、また、病歴要約29例のうち14症例までは）経験症例数に含めることができます。

3-3：習得すべき専門知識

経験症例やカンファレンス等を通じて、内科専門医として持つべき知識の習得目標を設定し、達成度を評価します。各領域における専門知識の内容については「[研修カリキュラム（項目表）](#)」を参照してください。

3-4：経験・習得すべき技能（診察・検査・診断・処置・手術など）

内科領域における「技能」とは、疾患の診断と治療に必要な医療面接、身体診察、検査所見解釈、および診断・治療方針決定をいいます。これらを

- (1) 専門研修 1 年時：指導医とともに行うことができる
- (2) 専門研修 2 年時：指導医の監督下で行うことができる
- (3) 専門研修 3 年時：自立して行うことができる

ようになるのが目標です。各領域における具体的な技能の内容については「[技術・技能評価手帳](#)」を参照してください。

3-5：身につけるべき倫理性・社会性・学問的姿勢

内科専門医にふさわしい倫理性・社会性を育むとともに、学問的な姿勢を身につけることも内科専門研修の目標です。以下のような点が挙げられます。

- (1) 患者とのコミュニケーション能力
- (2) 患者中心の医療の実践
- (3) 医の倫理・医療安全への配慮
- (4) 医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- (5) 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- (6) 患者から学ぶ姿勢
- (7) 科学的な根拠に基づいた診断・治療（EBM: evidence-based medicine）
- (8) 自己研鑽と生涯学習をおこなう姿勢
- (9) 学会への参加、症例報告、臨床研究などの学術活動
(学会または論文発表を 2 件以上おこなうことが研修修了に必要です)

3-6：地域医療の経験

プログラム参加施設の中には関西医科大学香里病院のように地域密着型の施設も含まれています。急性期病院とは地域における立場や役割の異なる複数の施設で内科専門医に求められる役割を経験していただきます。

4. 内科専門研修の方法

4-1：臨床現場での学習

症例を担当することにより、患者さんとのコミュニケーション能力を高め、病態や診断過程についての理解を深めます。また、他者に対して症例提示をおこなうことにより、プレゼンテーション能力を身につけます。症例は入院症例が主体になりますが、外来担当医として外来診療も経験していただきます。また、外来・当直において救急症例の経験もしていただきます

4-2：臨床現場を離れた学習

(1) 医療安全・感染防御・医療倫理に関する講習会、(2) CPC、(3) 各診療科における抄読会、(4) 研修施設群合同カンファレンス、(5) JMECC 講習会、(6) 内科系学会等で医療安全・感染防御・医療倫理に関する知識、疾患の病態・治療に関する最新のエビデンス、内科領域の救急疾患に対する対応を学びます。

4-3：自己学習

「[研修カリキュラム（項目表）](#)」に各領域において身につけるべき知識や技能と、到達目標が示されています。自身の経験がなくとも学習すべき内容については内科系学会のセミナー（DVD、WEB 配信）や日本内科学会のセルフトレーニング問題等を用いて学習します。

5. 内科専門研修の評価

- (1) 指導医は専攻医が登録した研修内容を確認し、必要なフィードバックの後にシステム上で承認をします。
- (2) 年に複数回、自己評価・指導医による評価、メディカルスタッフによる 360 度評価をおこないます。
- (3) 施設の研修委員会は年に複数回、プログラム管理委員会は年 1 回以上、登録システム上で研修状況を確認し、必要に応じてプログラムの修正をします。
- (4) 専門研修 2 年次までに提出された 29 症例の病歴について査読がおこなわれ、3 年次修了までにすべての病歴が受理可能となるようにします。

6. 修了判定のプロセス

担当指導医が日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）で以下の項目を確認します。

- (1) 56 疾患群（160 症例）以上の症例が登録されていること
- (2) 29 症例の病歴要約が登録され査読の結果受理されていること
- (3) 2 回以上の学会発表または論文発表が登録されていること
- (4) JMECC を受講していること
- (5) プログラムで定める講習会を受講していること
- (6) 360 度評価に基づき医師の適性に問題がないこと

上記を確認後にプログラム管理委員会で合議のうえ最終判定をおこないます。

7. 専攻医の就業環境

労働基準法を順守することを原則とし、各施設の就業規則に従います。プログラム管理委員会では各施設における労働環境・労働安全・勤務状況に関する報告がなされ、これらの事項について総括的な評価をおこないます。

8. 内科専門研修プログラムの評価

8-1：専攻医・指導医による評価

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）においてプログラムの評価をおこない、集計結果を研修プログラムの改善に役立てます。

8-2：各施設の研修委員会、プログラム管理委員会、専門医機構による評価

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）において専攻医の研修状況・指導医の指導状況をモニターし、プログラムが円滑に進められているか判断します。

8-3：専門医機構による実地調査

実地調査による評価はプログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改善を行います。

9. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修

9-1：休止・中断

疾病や妊娠・出産に伴う研修期間の休止については、プログラム修了要件を満たし、かつ、休職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はありません。6ヶ月を超えて休職する場合は、研修期間の延長が必要になります。留学期間は原則として研修期間として認められません。

9-2：他の内科専門研修プログラムへの移動

やむを得ない事情により研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が継続的研修を相互に認証する必要があります。

9-3：他領域の専門研修プログラムからの移動

他領域から内科領域の専門研修プログラムに移行する場合や他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめめる場合には、過去の経験症例について当該専攻医が根拠となる記録を提示し、担当指導医およびプログラム統括責任者が内科専門研修の経験としてふさわしいと認めた場合に限り、当該症例の日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録が認められます。症例経験として適切か否かの最終判定は専門医機構内科領域研修委員会が行います。

10. 研修プログラムの管理運営体制

10-1：プログラム管理委員会（基幹施設）

基幹施設に研修プログラムおよびプログラムに属するすべての専攻医の研修を管理するプログラム管理委員会をおき、プログラム統括責任者を定めます。

10-2：研修委員会（基幹施設、連携施設）

基幹施設および連携施設にプログラム管理委員会の下部組織として各施設の研修委員会を設置します。

11. 関西医科大学内科専門研修プログラム施設群概要

基幹施設である関西医科大学附属病院と30の連携施設、合計31の病院により構成されています。関西医科大学内科には5講座があり、各講座の担当分野は以下の通りです。

- (1) 第一内科：呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症
- (2) 第二内科：循環器、内分泌、代謝、腎臓
- (3) 第三内科：消化器
- (4) 神経内科：神経
- (5) 心療内科：総合内科

各施設と関連する診療科を以下に示します。関西医科大学附属3病院以外の連携施設では関連診療科担当分野のsubspecialty研修に重点をおいた研修をおこないます。

	病院名	病床数	関連する診療科				
			一内	二内	三内	神経	心療
1	関西医科大学附属病院	751	○	○	○	○	○
2	関西医科大学総合医療センター	477	○	○	○	○	
3	関西医科大学香里病院	199	○	○	○		
4	伊賀市立上野総合市民病院	281			○		
5	上山病院	189	○				
6	NTT西日本病院	341		○			
7	大阪府済生会泉尾病院	440	○	○	○	○	○
8	大阪府済生会中津病院	712				○	
9	大阪府済生会野江病院	400			○	○	
10	大阪急性期・総合医療センター	865		○			
11	大阪警察病院	580		○			
12	大阪労災病院	678		○			
13	大阪医療センター	694		○			
14	大手前病院	401		○			
15	交野病院	208	○				
16	河内総合病院	350	○	○			
17	北野病院	699			○	○	
18	京都桂病院	585		○			
19	国立循環器病研究センター	612		○			
20	堺市立総合医療センター	487		○			○
21	静岡市立静岡病院	506			○		
22	住友病院	499		○			
23	青樹会病院	78	○				
24	大和病院	175	○				
25	宝塚病院	131		○			
26	天理よろづ相談所病院	815				○	
27	市立東大阪医療センター	547		○			
28	東大阪病院	265	○				
29	兵庫県立西宮病院	400		○			
30	大和郡山病院	235			○		
31	りんくう総合医療センター	388		○			

12. 専攻医の募集と採用方法

12-1：募集専攻医数

下記の(1)～(4)により、関西医科大学内科専門研修プログラムにおける募集可能な専攻医数の上限は1学年24人とします。

- (1) 過去3年間に卒後3年目で関西医科大学内科系講座に入局した後期研修医は1学年15～25名です。
- (2) 関西医科大学内科系講座では各医局に割り当てられた定員に応じて、募集定員を調整することが可能です。また後期研修医については講座定員とは別に病院長枠での採用が可能で過去の実績もあります。
- (3) 関西医科大学附属病院（枚方）、関西医科大学総合医療センター（滝井）の剖検数は2013年度～2015年度の3年間の平均でそれぞれ年間25体および9体です。
- (4) 関西医科大学附属病院（枚方）での入院症例数は以下の通りです。

消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
928	1028	28	172	177	501	252	200	10	56	3	168

疾患群充足度は62/70で、内分泌・アレルギー・感染症がやや少なめですが、外来診療患者を含めれば十分な症例数を経験することが可能であり、連携施設での研修もあわせて修了に必要な56疾患群160症例を問題なく経験できるものと思います。

12-2：専攻医の募集と選考

原則として書類審査および面談をおこない、採否を決定して本人に文書で通知します。詳細については関西医科大学の [website](#) に掲示します。

12-3：専攻医の登録

関西医科大学内科専門研修プログラムを開始した専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）により、日本専門医機構に専攻医として登録します。

13. モデルプログラム・週間スケジュール

13-1：モデルプログラム（例）

3年間のプログラムの例を示します。subspecialty 領域の専門研修については（3年間で内科専門研修を修了することが必須要件ですが）、後期研修3年間のうち合計2年間相当まで subspecialty 研修として取り扱うことが認められています。

(1) モデル1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	関西医科大学附属病院（枚方）での研修											
2年目												
3年目	連携施設での研修（subspecialty研修）											

最初の2年間を関西医科大学附属病院（枚方）で研修し、3年目に連携施設で研修をします。3年目は主に subspecialty 研修をおこないます。

(2) モデル2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	関西医科大学附属病院（枚方）での研修											
2年目	関西医科大学総合医療センター（滝井）／香里病院での研修											
3年目	連携施設での研修（subspecialty研修）											

最初の1年間を関西医科大学附属病院（枚方）、2年目を関西医科大学総合医療センター（滝井）もしくは関西医科大学香里病院で研修し、3年目から他の連携施設で研修をおこないます。3年目は subspecialty 研修が主体です。1年目と2年目は入れ替わることもあり得ます。

(3) モデル3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	関西医科大学附属病院（枚方）での研修											
2年目	連携施設での研修（subspecialty研修（＋内科研修））											
3年目												

最初の1年間を関西医科大学附属病院（枚方）で研修し、2年目以降は連携施設での研修をおこないます。連携施設では主に subspecialty 研修をおこないますが、経験した症例の内容に応じて自分の subspecialty 以外の内科領域の研修をおこなうこともあり得ます。

(4) モデル 4

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	附属病院(枚方)						総合医療センター(滝井)／香里病院					
2年目	連携施設での研修(subspecialty研修(+内科研修))											
3年目												

最初の1年間のうち半年間を関西医科大学附属病院(枚方)、残り半年間を関西医科大学総合医療センター(滝井)もしくは関西医科大学香里病院で研修し、2年目以降は連携施設での研修をおこないます。連携施設では主に subspecialty 研修をおこないますが、経験した症例の内容に応じて自分の subspecialty 以外の内科領域の研修をおこなうこともあり得ます。1年目の附属病院(枚方)と総合医療センター(滝井)／香里病院は順番が入れかわることもあります。

上記はあくまでもモデルケースで、実際には基幹施設と連携施設の組み合わせにはいろいろなパターンがありうるものと思います。各内科領域のローテーションは原則として2～3ヶ月単位でおこなわれます。JMECC 講習会および年2回の医療安全と感染症対策の講習会の受講も義務づけられています。

13-2: 週間スケジュール (例)

循環器内科の例を示します。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜・日曜
午前	病棟業務	CCU日勤	病棟業務	CAG/PCI	病棟業務	日直・当直 講習会 学会など
午後	病棟業務	CCU日勤	総回診	CAG/PCI	専門外来	
	抄読会 研究発表会	CAG/PCI カンファレンス	心不全 カンファレンス	CAG/PCI カンファレンス	内科外科合同 カンファレンス	
	当直など					

14. プログラム管理委員会委員・研修委員会委員

(1) プログラム管理委員会委員・基幹施設研修委員会委員

- ・野村 昌作（内科学第一講座教授）
- ・塩島 一朗（内科学第二講座教授、プログラム統括責任者、研修委員会委員長）
- ・岡崎 和一（内科学第三講座教授）
- ・日下 博文（神経内科学講座教授）

(2) 連携施設研修委員会委員長

- ・山本 克浩（関西医科大学総合医療センター（滝井））
- ・高山 康夫（関西医科大学香里病院）
- ・八尾 隆治（伊賀市立上野総合市民病院）
- ・杉本 博是（上山病院）
- ・緒方 篤（NTT 西日本病院）
- ・松本 隆之（大阪府済生会泉尾病院）
- ・尾崎 彰彦（大阪府済生会中津病院）
- ・安田 浩一朗（大阪府済生会野江病院）
- ・林 晃正（大阪急性期・総合医療センター）
- ・樋口 義治（大阪警察病院）
- ・山内 淳（大阪労災病院）
- ・是恒 之宏（大阪医療センター）
- ・三井 秀紀（大手前病院）
- ・鈴木 正彦（交野病院）
- ・林 英宰（河内総合病院）
- ・八隅 秀二郎（北野病院）
- ・小林 智子（京都桂病院）
- ・野口 輝夫（国立循環器病研究センター）
- ・松浦 基夫（堺市立総合医療センター）
- ・小野寺 知哉（静岡市立静岡病院）
- ・平岡 久豊（住友病院）
- ・金 勝浩（青樹会病院）
- ・谷浦 武仁（大和病院）
- ・馬殿 正人（宝塚病院）
- ・八田 和大（天理よろづ相談所病院）
- ・市川 稔（市立東大阪医療センター）
- ・北野 均（東大阪病院）
- ・檜原 啓之（兵庫県立西宮病院）
- ・藤村 和代（大和郡山病院）
- ・倭 正也（りんくう総合医療センター）

15. 関西医科大学内科専門研修プログラム施設群紹介

(1) 関西医科大学附属病院（枚方）

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員メンタルヘルス相談）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は 57 名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会を設置し、卒後臨床研修センターと協働してプログラムに沿った研修ができるように調整します。 ・医療倫理（2015 年度実績 10 回）・医療安全（2014 年度実績 26 回）・感染対策講習会（2014 年度実績 15 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2014 年度実績 17 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に卒後臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 62 疾患群程度について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2013 年度～2015 年度の 3 年間平均で 25 体)を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的を受託研究審査会を開催（2014 年度実績 11 回）しています。
<p>指導責任者</p>	<p>塩島 一郎（内科学第二講座教授）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>関西医科大学附属病院は北河内二次医療圏において中心的な役割を持つ急性期病院です。幅広い症例を経験することにより、内科全般の知識を深めることができます。また、連携施設では急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応し地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。特定の subspecialty を中心とする研修をおこなうことも可能です。</p>

指導医数 (常勤医)	日本認定内科医 57 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本消化器病学会消化器専門医 21 名、日本肝臓病学会専門医 14 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本内分泌学会内分泌専門医 2 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 6 名 日本神経学会神経内科専門医 8 名、日本リウマチ学会専門医 3 名 日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 13,698 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 6,213 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、12 領域、60 疾患群程度の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定研修施設 日本アレルギー学会専門医研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本食道学会全国登録認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本感染症学会研修施設 日本期間食道学会専門医研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本内分泌学会認定教育病院 日本甲状腺学会認定施設 日本心療内科学会認定専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設

(2) 関西医科大学総合医療センター（滝井）

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員メンタルヘルス相談）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地近隣に附設保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は 25 名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理（2015 年度実績 8 回）・医療安全（2014 年度実績 26 回）・感染対策講習会（2014 年度実績 25 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2014 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 55 疾患群程度について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 12 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2014 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的を受託研究審査会を開催（2014 年度実績 11 回）しています。
<p>指導責任者</p>	<p>山本 克浩（循環器腎内分泌代謝内科部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>関西医科大学総合医療センターは基幹施設である関西医科大学病院とともに北河内二次医療圏において中心的な役割を持つ急性期病院です。基幹施設との緊密な連携のもと、幅広い症例を経験することにより、内科全般の知識を深めることができます。また、特定の subspecialty を中心とする研修をおこなうことも可能です。</p>
<p>指導医数 （常勤医）</p>	<p>日本認定内科医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本肝臓病学会専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 7,345 名（1 ヶ月平均） 入院患者 3,771 名（1 ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 10 領域、55 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本老年医学会認定施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本血液学会研修施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本透析医学会認定施設</p> <p>日本神経学会認定教育施設</p> <p>日本アレルギー学会教育施設</p> <p>日本救急医学会指導医指定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修指定施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本甲状腺学会認定専門医施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会</p>

(3) 関西医科大学香里病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員メンタルヘルス相談）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は 10 名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理（2016 年度実績 3 回）・医療安全（2016 年度実績 23 回）・感染対策講習会（2016 年度実績 8 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 35 疾患群程度について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を定期的で開催（2016 年度実績 5 回）しています。
指導責任者	<p>高山 康夫（内科診療部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>関西医科大学香里病院は、関西医科大学附属病院および関西医科大学総合医療センターと連携し、地域に開かれた大学病院としての役割を果たしています。内科は臓器別ではなく、全体としてひとつの部門になっており、消化器・循環器・内分泌代謝・腎臓・呼吸器疾患を中心にひろく一般的な内科診療の研修が可能です。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 1 名 日本肝臓学会専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 4,818 名（1 ヶ月平均） 入院患者 2,404 名（1 ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、35 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本消化器病学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育病院 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 など</p>

(4) 伊賀市立上野総合市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は2名在籍しています。 ・伊賀市立上野総合市民病院研修管理委員会（委員長：院長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す消化器分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・消化器分野の9疾患群のうち8疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、パソコン室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行っています。
指導責任者	<p>八尾 隆治（消化器・肝臓内科部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>伊賀市立上野総合市民病院は、昨年上部内視鏡 2,681 件、下部内視鏡 1,362 件、ERCP59 件と豊富な症例があり、常勤医 3 名、非常勤 1 名体制で研修される先生に十分な症例を提示でき手技を学ぶのに最適と考えます。また肝胆膵の分野においても経皮的に肝臓や胆嚢のドレナージも積極的に行っています。内視鏡治療を中心に幅広い消化器疾患を学ぶことができる病院です。</p>
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本肝臓学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 5,755 名（1 ヶ月平均） 入院患者 5,798 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある消化器分野の9疾患群のうち8疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本がん治療認定医療機構認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 など

(5) 上山病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・非常勤医師として適切な労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は1名在籍しています。 ・研修委員会を設置して施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち5分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうち21疾患群について研修できます。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で学会発表をしています。
指導責任者	<p>杉本 博是 (呼吸器内科)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>上山病院は北河内地区の中心的な急性期病院であり、救急医療から在宅支援まで地域密着型、地域完結型の医療を目指し地域医療に貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会総合内科専門医3名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医3名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医1名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 2,560名 (1ヶ月平均) 入院患者 85名 (1ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある5領域、21疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設</p>

(6) NTT西日本病院

<p>認定基準 【整備基準23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 • NTT西日本大阪病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 • 人権・同和問題推進及びセクシャルハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 • 近隣の託児施設への紹介が可能です。
<p>認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 指導医は15名(2018年4月現在)在籍しています(下記)。 • 内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者，プログラム管理者緒方篤)にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 • 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修部を設置します。 • 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2017年度実績12回)し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 • 研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催(2018年度予定)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 • CPC を定期的で開催(2017年度実績6回)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 • 地域参加型のカンファレンス(地域医療連携フォーラム，天王寺区医師会・病院合同講演会，アップツーデートセミナー；など2017年度実績4)を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 • プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 • 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修部が対応します。
<p>認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • カリキュラムに示す内科領域13分野のうち神経領域を除く12分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 • 70疾患群のうち56疾患群について当院で研修できます(上記)。 • 専門研修に必要な剖検(2017年度実績10体，2016年度実績7体，2015年度11体)を行っています。
<p>認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 • 倫理委員会を設置し，定期的で開催(2017年度実績12回)しています。 • 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2017年度実績5演題，2016年度実績5演題)をしています。

指導責任者	<p>緒方 篤【内科専攻医へのメッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTT西日本大阪病院は、大阪市医療圏の中心的な急性期病院の一つであり、大阪府大阪市医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。健診センターを介した健康増進や予防医療、包括ケア病棟での地域医療との連携、一般内科診療から内科高度専門医療まで幅広く内科系疾患が経験できますので、臓器にとらわれず総合的に内科診療をする力がつきます。 • 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	<ul style="list-style-type: none"> • 日本内科学会指導医15名、日本内科学会総合内科専門医9名 • 日本消化器病学会消化器専門医2名、日本肝臓病学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医2名、日本内分泌学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医1名、日本血液学会血液専門医3名、日本アレルギー学会専門医（内科）2名、日本リウマチ学会専門医4名
外来・入院 患者数	<ul style="list-style-type: none"> • 外来患者177,484名（年間実数） 入院患者5,408名（年間実数） • 内科外来患者88,324名（年間実数） 内科入院患者3,088名（年間実数）2017年度実績
経験できる疾患 群	<ul style="list-style-type: none"> • 神経系疾患ときわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技 術・技能	<ul style="list-style-type: none"> • 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	<ul style="list-style-type: none"> • 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	<ul style="list-style-type: none"> • 日本内科学会認定医制度教育病院 • 日本消化器病学会認定施設 • 日本消化器内視鏡学会指導施設 • 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 • 日本糖尿病学会認定教育施設 • 日本内分泌学会専門医認定施設 • 日本血液学会認定血液研修施設 • 日本腎臓学会研修施設 • 日本透析医学会専門医制度認定施設 • 日本リウマチ学会教育施設 • 日本アレルギー学会認定教育施設 • 日本呼吸器学会認定施設 • 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 • 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 • 日本がん治療認定医機構認定研修施設 • など

(7) 大阪府済生会泉尾病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪府済生会泉尾病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント防止規程が整備され、ハラスメント相談員が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に付属保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は7名在籍しています。 ・研修委員会は、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・研修委員会と臨床研修部で専攻医の研修状況を管理し、プログラムに沿った研修ができるように調整します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2015年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（CAG研究会、EPSフォーラム、アブレーション研究会、西大阪心臓会議、新大阪腎カンファレンス、NPPVカンファレンス、SALT CLUB、大正泉尾呼吸ケア研究会、大阪西部泉尾喘息研究会、肝疾患懇話会等；2015年度実績24回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち5分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうち37疾患群以上について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2013年度2体、2014年度3体、2015年度4体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、随時開催（2015年度実績1回）しています。 ・治験管理部署を設置し、受託研究審査会を随時開催（2014年度実績1回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績3演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>森 泰清（腎臓内科部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪府済生会泉尾病院は、大阪市西部医療圏に属しており、超急性期から回復期・慢性期までカバーしています。所在地である大正区においては地域基幹病院として、コモンディーズをはじめ様々な疾患と多様な病期・病態の患者を診ることができ、内科全般において総合的な診療能力を養うことができます。</p>

	<p>加えて、地域完結型医療を目指す地域包括ケアシステムの中核を担うため、地域との繋がりは極めて強いです。在宅医療や地域連携パスを介して開業医や訪問看護師・介護士等の医療・介護従事者との連携を活発に行うことにより、地域医療のあり方と共に患者の経済事情や住環境・家族環境などの社会的背景を踏まえた全人的医療を学ぶ機会が豊富にあります。内科専攻医として幅広い知識と経験を体得できるものと考えます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医：7名 日本内科学会総合内科専門医：5名 日本消化器病学会消化器専門医：2名 日本肝臓学会専門医：1名 日本循環器学会循環器専門医：3名 日本糖尿病学会専門医：2名 日本腎臓病学会専門医：2名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 7,736名 (1ヶ月平均) 入院患者 251名 (1ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器管学会認定胃腸科指導施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本腎臓学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会認定教育施設</p>

(8) 大阪府済生会中津病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・済生会中津病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 29 名在籍しています。 ・各内科系診療科の代表・臨床教育部部長などで構成される研修委員会をおき、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・各診療科が参加している地域参加型のカンファレンスに専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2013 年度 6 体、2014 年度実績 11 体、2015 年度 7 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行い（2015 年度実績 12 回）しています。 ・治験審査委員会と臨床研究倫理審査委員会を設置し、各々定期的に審査会を開催（各々2015 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 7 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>長谷川 吉則（内科統括部長、呼吸器内科部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪府済生会中津病院は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどからなる済生会中津医療福祉センターの中核をなす 712 床の大型総合病院であり、平成 28 年に創立 100 周年を迎えました。</p> <p>当院は大阪市医療圏の北部地域の中心的な急性期病院として、地域の病診・病病連携の中核をなし、救急診療に力を注ぐ一方、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟も併せ持っており、急性期から慢性期まで幅広い疾患の診療経験ができます。</p>

	<p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医 29 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本糖尿病学会専門医 9 名 日本内分泌学会内分泌専門医 5 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名 日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科） 1 名、 日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本老年医学会老年病専門医 2 名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 14,118 名（1 ヶ月平均） 入院患者 677 名（1 ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定医制度内科専門医教育病院 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本心血管カテーテル治療学会 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本認知症学会認定施設 など</p>

(9) 大阪府済生会野江病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士 2 名在籍）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、宿直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 22 名在籍しています。 ・各内科系診療科の代表・臨床教育部部長などで構成される研修委員会をおき、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（大阪市東部地域医療連携学術講演会、城東消化器診療勉強会、淀川 G I カンファレンス、大阪東部消化器フォーラム、肝・消化器代謝栄養研究会、関西消化器・肝疾患懇話会、肝疾患連携懇話会、大阪呼吸器カンファレンス、DM net ONE、大阪糖尿病と足病変管理について考える会、のえ脳卒中セミナー、なにわ神経内科懇話会、大阪市東部地区循環器フォーラム、野江循環器疾患よろず相談セミナー、N-JAT フォーラム、ECO（Eastern COnference of cardiovascular disease）、大阪市東部病院勤務医懇話会、等：2015 年度実績 25 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます（2018 年 JMECC 開催予定）。 ・日本専門医機構の实地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年実績 5 体、2014 年度実績 3 体、2013 年度 7 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2015 年度実績 9 回）しています。 ・治験管理委員会を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2015 年度実績 3 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度）をしています。

指導責任者	<p>羽生 泰樹（消化器内科部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪府済生会野江病院は大阪市東部医療圏の中心的な急性期病院であり、当院および連携施設での研修により、内科専門医として必要十分な症例の経験が可能です。内科学会専門医受験に必要な研修内容を確保したうえで、subspecialty 等、将来の進路や個人の希望を考慮したフレキシブルなプログラムとなっています。内科系 subspecialist、内科系救急医療の専門医、病院における generalist、地域のかかりつけ医等、様々な進路が考えられますが、それらの進路へのスムーズな移行に配慮するとともに、いずれにも求められる患者本位の全人的医療を実践する基礎となる研修を意図しています。多くの専攻医の皆さんと一緒に、楽しく学べることを楽しみにしています。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医 22 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名</p> <p>日本消化器病学会消化器病専門医 4 名、</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 3 名</p> <p>日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名</p> <p>日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名</p> <p>日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 8,444 名（1 ヶ月平均） 入院患者 399 名（1 ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本血液学会認定血液研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本神経学会専門医制度准教育施設</p> <p>日本認知症学会専門医教育施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本消化器病学会専門医認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p>

(10) 大阪急性期・総合医療センター

<p>認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する施設(大阪府こころの健康総合センター)が、病院と公園をはさんで隣にあります。 ・ハラスメント対策講習会が院内で毎年開催されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院と同敷地内に保育所があり、病児保育も含め利用可能です。
<p>認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JMECC 開催要件であるディレクターが在籍しており、毎年数回講習会を開ける体制にあります。 ・指導医は 2018 年 4 月の時点で 30 名在籍しています。 ・専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的で開催(2014 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 3 回、感染対策 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催(2013, 2014, 2015 年度実績: 24 回, 21 回, 26 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(病診連携カンファレンス、2015 年度実績 5 回)を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2014 年度実績 6 演題)をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>大阪急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム責任者 林 晃正</p>
<p>指導医数(常勤)</p>	<p>日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名</p>
<p>外来・入院 患者数</p>	<p>2015 年度実績: 外来患者 1,249 名(平均/日)、入院患者 20,211 名/年</p>

経験できる疾患群	<p>J-OSLERにある内科13領域、70疾患群のほとんどすべての症例を定常的に経験することができます。当センターは高度救命救急センター、三次救急及び二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、24時間体制で患者さんを受け入れています。従って、救命救急センターと連携して救急領域の不足疾患を経験することが可能です。また、障害者医療・リハビリテーションセンターを有して、医療と福祉の連携といった観点に立った活動も行っているため、急性期から慢性期まで幅広い疾患群を経験できます。</p> <p>2016年4月1日より血液・腫瘍内科がオープンしました。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、大阪府南部医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本不整脈学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本血液学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設</p>

(11) 大阪警察病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師(特定任期付職員)として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署(総務課厚生係)があります ・ハラスメント窓口(人事課)が整備されています。 ・女性専攻医のための休憩コーナー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内に病児保育室があり、利用可能です。 ・託児手当があり、利用可能です(子が3歳に達する迄)。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は24名在籍しています(2016年12月現在)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)), 副統括責任者(ともに総合内科専門医かつ指導医);専門医研修プログラム準備委員会から2017年度中に移行予定)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と専門医研修センター(仮称)(2017年度予定)を設置します ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的で開催(2014年度実績18回, 2015年度実績23回, 2016年度実績(2017年1月末時点)24回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的で開催(2014年度実績19回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をあたえます。 ・地域参加型のカンファレンス(天王寺区医師会・病院合同講演会年1回、臨床医講習会年4回、各内科診療科地域連携講演会年5回前後、夕陽丘緩和ケア連絡会年3-4回など)を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(2017年度:連携施設にて開催予定)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます(当院でも開催準備中)。 ・日本専門医機構による施設実地調査に専門医研修センター(仮称)(2017年度設置予定)が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2014年度実績21体、2015年度実績19体)を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、OAルームなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的(2014年度実績12回)に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2014年度実績11回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2014年度実績14回)をしています。

	<p>・学会等への参加は出張扱いとし、出張費を支給しています（当院規定による）。</p>
指導責任者	<p>尾下 正秀（副院長、消化器内科部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪警察病院は、大阪府二次医療圏の中心的な急性期病院であり、二次医療圏・近隣医療圏にある連携施設と内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>内科専門医外来，ER・総合診療センターにおける外来・当直研修を通じて、初期診療に十分対応しえる医師をめざした研修を、また、高齢者医療，慢性期疾患，癌疾患などの継続的な診療など、多数の症例を経験することができます。一方、入院症例においては、入院から退院（初診・入院～退院・通院）経時的に、診断・治療の流れを経験することで、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただけます。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 8 名 ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 39,077 名（1ヶ月平均）入院患者 1,330 名（1ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめてまれな疾患をのぞいて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会専門医制度認定教育病院 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓学会認定医制度認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会専門医認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定準教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 など</p>

(12) 大阪労災病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・独立行政法人労働者健康安全機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地から徒歩1分のところに保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は14名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・内科部長）、プログラム管理者（副院長・循環器内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2016年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催（2018年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的で開催（2016年度実績11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：堺循環器懇話会、南大阪心疾患治療フォーラム、南大阪不整脈研究会、堺腎臓ミーティング、南大阪腎疾患談話会、阪和透析合併症講演会、南大阪消化器病懇話会など；2016年度実績42回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2018年度開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2016年度実績12体、2015年度実績14体）を行っています。

<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2016年度実績 5回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的治験委員会を開催（2016年度実績 11回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2016年度実績 8演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>山内 淳</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪労災病院は、大阪府南大阪医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 （常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 14 名、日本消化器病学会消化器指導医 1 名、日本内分泌学会指導医 1 名、日本人間ドック学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 2 名、日本腎臓学会指導医 2 名、日本老年医学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 21 名、日本超音波医学会指導医 3 名、日本高血圧学会指導医 3 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本透析医学会指導医 2 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 33,006 名（1ヶ月平均）入院患者 16,886 名（1ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 （内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本精神神経学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設</p>

(13) 大阪医療センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医 の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 国立病院機構大阪医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。 ・ ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病事後保育を含め利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修 プログラムの 環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 25 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。 ・ 医療倫理は年 3 回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務づけられます。医療安全セミナーを年 14 回、感染対策セミナーを年 12 回開催し、専攻医に受講を義務づけます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・ CPC を毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、緩和ケアセミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の 環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうち 69 疾患群について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（年平均 10 体以上）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の 環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・ 倫理委員会（適宜開催）と受託研究第 2 審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第 1 委員会（月 1 回）で審査しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。

指導責任者	三田英治 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪医療センターは、大阪府 2 次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 25 名 日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会専門医 8 名 日本呼吸器学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本神経学会専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 1 名 日本救急医学会専門医 1 名 日本内科学会認定医 52 名 日本循環器学会専門医 5 名 日本肝臓学会専門医 9 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本血液学会専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医 1 名 日本感染症学会専門医 2 名
外来・入院 患者数	外来患者 年間 22,801 名 (1 ヶ月平均 1,900 人) 入院患者 年間 15,304 名 (1 ヶ月平均 1,275 人)
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地 域医療・診療 連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本神経学会準教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本胆道学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本腎臓病学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本感染症学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

(14) 大手前病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、当直室が整備されています。 ・保育所利用制度があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2015 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（大手前病院病診連携症例検討会：2015 年度実績 6 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、神経、循環器、代謝・内分泌、呼吸器および血液、腎臓、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 10 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理審査委員会を設置し、定期的で開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・治験事務局を設置し、定期的を受託研究審査会を開催（2015 年度実績 28 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。その他を含め内科系の学会で 2015 年度に 11 演題を発表しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>三井 秀紀</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大手前病院は、大阪市東部医療圏の中心的な急性期病院の 1 つで、大阪府指定の地域医療支援病院でもあり、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。内科系の多くの subspecialty を持った病院であり、各分野の専門医がおり多彩な疾患を経験できます。</p>

	<p>大阪府がん診療拠点病院であり、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、放射線治療、内視鏡検査・治療から緩和ケア治療までを経験できます。</p> <p>救急病院で二次救急の救急搬送を年間約 3700 件受け入れており、救急の研修も充分できます。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本内分泌学会専門医 2 名、日本神経学会専門医 1 名 日本造血細胞移植学会専門医 2 名 ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 30,988 名（1 ヶ月平均）入院患者 8,417 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	多くの内科領域において内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます ・急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定内科専門医教育病院 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会専門医制度研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本大腸肛門病学会関連施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本脳卒中学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度準教育施設 日本感染症学会感染症専門医制度認定研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 など</p>

(15) 交野病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は3名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2014年度実績6体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的を開催します。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催します。
指導責任者	<p>鈴木 正彦（内科部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>社会医療法人信愛会交野病院は、大阪府北河内医療圏の中心的な急性期病院であり、北河内医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会総合内科専門医3名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医1名 ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 7,800名（1ヶ月平均） 入院患者 220名（1ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、60疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>該当なし</p>

(16) 河内総合病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地隣に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は5名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全講習会（2015年度実績2回）・感染対策講習会（2015年度実績2回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的で開催（2015年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015年度実績地元医師会合同勉強会3回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器内科、呼吸器内科および循環器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。専門研修に必要な剖検を行っています（2015年度実績2体）。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、不定期で開催しています。 ・治験管理室を設置し、不定期で受託研究審査会を開催（2015年度実績1回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2014年度実績1演題）をしています。 ・専攻医が国内外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も不定期で行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>林 英宰（副院長、心臓血管センター長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>東大阪地区における中心的な急性期病院として、救急患者の受け入れを精力的に続けています。特に急性心筋梗塞や急性心不全などの循環器救急受け入れ体制が充実しています。総合内科や消化器内科に経験豊富な指導医が複数在籍しており、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く研修を行うことができます。</p>
<p>指導医数 （常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 6名、日本内科学会総合内科専門医 3名 日本消化器病学会消化器専門医 1名、 日本循環器学会循環器専門医 4名、</p>

	日本アレルギー学会専門医 1 名、日本超音波学会専門医 3 名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 12,000 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 3,500 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、循環器内科、総合内科、消化器内科、呼吸器内科系の多数の入院・外来患者において幅広い内科治療を経験できます。
経験できる技術・技能	地域の急性期病院の拠点として、心筋梗塞、狭心症、急性心不全などの循環器救急患者や肺炎、腎不全、胃潰瘍、糖尿病などの代表的な内科疾患を数多く経験できます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 など

(17) 北野病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報が検索できるデータベースサービス（UpToDate、Cochrane Library、Clinicalkey、MedicalOnline、科学技術情報発信・流通総合システム）(J-STAGE)、CiNii（NII学術情報ナビゲータ）他、多数）が院内のどの端末からも利用できます。 ・公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院の常勤医師としての労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・院内保育所が完備され、病児保育も利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会指導医は 33 名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全講習会（2015 年度実績 10 回）・感染対策講習会（2015 年度実績 7 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2015 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師卒後教育センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のほぼすべての疾患群程度について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2013 年度 8 体、2014 年度 16 体、2015 年度 11 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2015 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的を受託研究審査会を開催（2015 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 4 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>松本 禎之（内科統括部長、神経内科主任部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 北野病院は、大阪市二次医療圏の中心的な急性期病院であり、</p>

	<p>近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 33 名、日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器病専門医 8 名、日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本内分泌学会 1 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本アレルギー学会専門医 (内科) 1 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 1,722.0 名 (1 日平均) 入院患者 684.6 名 (1 日平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 10 領域、55 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本救急医学会認定専門医指定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など</p>

(18) 京都桂病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・嘱託常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ハラスメント相談及び苦情対応窓口あり。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科指導医は 28 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2014 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2014 年度実績 17 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・西京医師会と共同し、地域参加型のカンファレンスを定期的に多数開催しています。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています（2014 年度実績 12 体(内科系 12 体)、2013 年度 20 体(内科系 17 体)。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・臨床倫理委員会を設置し、定期的で開催しています（2014 年度実績 4 回）。 ・治験委員会、臨床研究・倫理委員会が別があり、各毎月 1 会開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>西村 尚志（呼吸器内科部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>京都・乙訓医療圏南部の急性期病院で、地域がん診療拠点病院でかつ地域医療支援病院です。地域の医療施設と連携しつつ責任感を持って地域の医療に貢献しています。同時に、初期および後期臨床研修病院として、医師のみならず多くの医療職の教育研修を行ってきました。そのような環境の中で、内科という医療の中でも中核を担う領域で、全人的・患者中心かつ標準的・先進的内科的医療の実践を志す内科専門医志望者を、連携病院とともに丁寧な育てていきたいと考えています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>内科指導医 28 名</p> <p>日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 6 名、</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 5 名</p>

	日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、 ほか
外来・入院患者数	外来患者 21,650 名（1 ヶ月平均） 入院患者 455 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 10 領域、55 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 骨髓移植推進財団非血縁者間骨髓採取・移植施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など

(19) 国立循環器病研究センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室担当）があります。 ・ハラスメント委員会が総務部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は 43 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2014 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2014 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2014 年度実績 2 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科 13 領域のうち 3 領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 85 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>野口 輝夫</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 43 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 0 名、日本肝臓病学会専門医 0 名 日本循環器学会循環器専門医 24 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本内分泌学会専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 0 名、 日本神経学会神経内科専門医 14 名、</p>

外来・入院患者数	外来患者名 8,710 (1ヶ月平均) 入院患者名 7,501 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて研修手帳(疾患群項目表)にある3領域、9疾患群の9症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設 など

(20) 堺市立総合医療センター

<p>認定基準 【整備基準23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・堺市立総合医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する職員支援センターがあります。 ・ハラスメント担当としては、職員相談窓口としてハラスメント相談員が、「地方独立行政法人堺市立病院機構就業規則」に基づき設置されており、職員支援センターが同規則に基づいて所用の措置を講じなければならないと定められています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接する職員寮の敷地内に院内保育所・病児、病後児保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は28名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会において、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育研究センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会などを定期的で開催（2017年度実績36回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2018年度実績9症例）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2018年度自施設内開催実績1回）を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育研究センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、指導医の連携施設への訪問に加えて電話や週1回の堺市立総合医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
<p>認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2016年度実績12体、2017年度実績17体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、自習室、ソフトウェアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2017年度実績1回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的な受託研究審査会を開催（2017年度実績10回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会には、年間で計3演題以上の学会発表（2017年度実績21演題）をしています。

指導責任者	<p>松浦 基夫</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>堺市立総合医療センターは、大阪府堺市二次医療圏の中心的な急性期病院であり、厚生労働省指定の地域がん診療連携拠点病院であり、大阪府の地域医療支援病院承認施設でもあります。また、内科系救急受入数は年間13,000件前後の実績があり、災害拠点病院・感染症指定医療機関（第一種、第二種）・エイズ診療拠点病院ならびに大阪府肝炎専門医療機関の役割も担い、480床（感染病床7床）をもっています。このプログラムでは、当院の培ってきた総合的な内科診療をもとに臨床研修を行っていきます。近隣医療圏にある大阪市北部の連携施設（淀川キリスト教病院）大学病院では大阪医科大学附属部病院、当医療圏内の特別連携施設（阪和第二泉北病院、南堺病院、ベルピアノ病院、阪南中央病院）とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、主に入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを支援します。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医28名，日本内科学会総合内科専門医17名 日本消化器病学会消化器専門医5名，日本肝臓病学会専門医3名 日本循環器学会循環器専門医2名，日本糖尿病学会専門医2名， 日本腎臓病学会専門医2名，日本老年医学会専門医2名， 日本内分泌学会専門医1名，日本呼吸器学会呼吸器専門医6名， 日本血液学会血液専門医5名，日本神経学会神経内科専門医1名， 日本アレルギー学会専門医（内科）1名，日本リウマチ学会専門医2名， 日本救急医学会救急科専門医2名，ほか</p>
外来・入院 患者数	<p>外来患者18,199名（平均延数／月） 新入院患者1,215名（平均数／月）</p>
経験できる疾患 群	<p>きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技 術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域 医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連定施設 日本神経学会認定准教育施設 日本アレルギー学会認定専門医教育施設 日本救急医学会認定指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本病理学会研修認定施設B 日本臨床細胞認定教育研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本消化管学会暫定処置による胃腸科指導施設 日本 I V R（インターベンショナルラジオロジー）学会専門医修練施設 など</p>

(21) 静岡市立静岡病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人静岡市立静岡病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士が担当する「こころの保健室」）があります。 ・ハラスメント委員会が静岡市立静岡病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理については臨床研究倫理セミナーとして倫理指針の資料を配布して報告書の提出の義務付けを行いません。 ・感染対策については講習会を定期的に開催（2015 年度実績 3 回＋再講演、ビデオ上映会）、また、医療安全については研修会を定期的に開催（2015 年度実績 6 回＋再講演、ビデオ上映会）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2016 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（静岡病診がんカンファレンス、静岡病院病診連携総会講演会、清水循環器カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち神経を除く 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち神経を除く 61 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 17 体、2014 年度実績 21 体、2013 年度 17 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 10 回）しています。 ・本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>小野寺 知哉（副院長、ハートセンター所長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>静岡市立静岡病院は、静岡県静岡医療圏の中心的な急性期病院であり、静岡医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>

	<p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 0 名、日本アレルギー学会専門医（内科） 2 名、 日本リウマチ学会専門医 0 名、日本感染症学会専門医 0 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 23,577 名（1 ヶ月平均）入院患者 1,080 名（1 ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち 12 領域、55 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会専門医認定教育施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など</p>

(22) 住友病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none">・研修に必要なインターネット環境があります。各個人にそれぞれ1台のPC端末が貸与され常に電子カルテにアクセス可能です。・一般財団法人住友病院常勤医師として勤務環境が保障されています。・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。・ハラスメント委員会が整備されています。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室、女子寮が整備されています。・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none">・常勤の指導医は 26 名在籍しています。・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会との連携を図ります。・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・CPC を定期的で開催（2015 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・地域参加型のカンファレンス（中之島地域医療セミナーなど年間60～70回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none">・カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。・70 疾患群のほぼすべての疾患群について研修できます。・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 22 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none">・臨床研究に必要な図書室、医学写真室などを整備しています。・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2014 年度実績 12 回）しています。・治験管理室を設置し、定期的な受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。・専攻医が学会に参加・発表する機会が多くあり、和文、英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。在籍中に筆頭著者として英文論文を複数発表した専攻医も過去に何人もいます。
指導責任者	宇高 不可思（内科系副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 一般財団法人住友病院は大阪市医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設と併せて内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医26名、日本内科学会総合内科専門医17名 日本消化器病学会消化器専門医8名、 日本循環器学会循環器専門医4名、 日本糖尿病学会専門医5名、日本内分泌学会専門医2名、 日本腎臓病学会専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、 日本血液学会血液専門医3名、日本神経学会神経内科専門医5名、 日本アレルギー学会専門医2名、日本リウマチ学会専門医1名、 日本感染症学会専門医1名、日本救急医学会救急科専門医1名、 ほか
外来・入院患者数	外来患者 11,314 名 (1ヶ月平均)、入院患者 408 名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定医研修施設 日本老年医学会専門医制度認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 日本超音波医学界認定超音波専門医制度研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本認知症学会認定専門医教育施設 など

(23) 青樹会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は2名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（寝屋川市感染症ネットワーク、感染防止対策地域連携カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち少なくとも5分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻分野での症例発表(院内にて)を年に1回行う事を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
指導責任者	<p>全 勝浩（院長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>青樹会病院は寝屋川市の地域に根ざした医療を行っています。訪問診療や地域の診療所、病院との連携に貢献できるように、また、入院医療については、主治医制を採用して退院の決定や退院後の在宅における家庭環境の調整といった全人的医療を実践できる専門医を目指します。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医2名、日本内科学会総合内科専門医2名
外来・入院患者数	外来患者2,500名（1ヶ月平均） 入院患者120名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)に掲載されている13領域の症例のうち、特に当院の専門である、血液疾患と消化器疾患については、幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	該当なし

(24) 大和病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。又、病時・病後児保育室も設置しています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は2名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうちほぼすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうち60程度の疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床活動に必要な図書室を設置しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的を開催します。 ・治験管理室を設置し、定期的を受託研究審査会を開催しています。
指導責任者	<p>谷浦 武仁（院長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は、豊能医療圏・近隣医療圏にある医療機関、各種施設と密接な連携を組み、必要に応じて可塑性のある、地域医療にも貢献できる医療機関として立地しています。</p> <p>入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境も包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。</p>
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医2名、日本循環器学会専門医1名
外来・入院患者数	外来患者名1,750（1ヶ月平均） 入院患者名99（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）に掲載されている13領域の症例のうち、膠原病や循環器（肺高血圧）の症例を多く経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	該当なし

(25) 宝塚病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・宝塚病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は 2 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 <p>医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2014 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>地域参加型のカンファレンス（宝塚循環器懇話会など、2014 年度実績 1 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 60 程度の疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>馬殿 正人（院長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>宝塚病院は地域密着型の病院として内科全般の診療に従事し、全ての診療科目に精通する内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本透析医学会指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本腎臓病学会指導医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者名 5,463（1 ヶ月平均） 入院患者名 2,874（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本透析医学会専門医制度認定教育関連施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設 など

(26) 天理よろづ相談所病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・内科専攻医もしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は 32 名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全(2015 年度実績 11 回)・感染対策講習会(2015 年度実績 12 回)を定期的に開催します。 ・CPC を定期的に開催(2015 年度実績 7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表(2015 年度実績 14 演題)をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>田口 善夫（呼吸器内科部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>来る高齢化社会では患者の 1 つの病気をただ治すといった治療モデルでは難しく、多疾患の同時並行的な治療を求められる。またキュアからケアへの移行、患者との死生観の共有が必要と考えられる。天理よろづ相談所病院は昭和 51 年よりレジデント制度を開始し、昭和 53 年よりシニアレジデントの内科ローテイトコースを行っている。また奈良県東和医療圏の急性期病院として役割を担っている。これらの経験を活かし、専門的な臓器別診療だけではなく、内科全般や更に医療周辺の社会機構にわたる幅広い知識や経験を基礎にバランスよく患者を診療する能力をもった内科医を養成したいと考えている。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 32 名，日本内科学会総合内科専門医 28 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本内分泌学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名，日本糖尿病学会専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名，日本血液学会血液専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医 1 名，日本感染症学会専門医 1 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 1,800 名（1 日平均） 入院患者 570 名（1 日平均）</p>

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本肝臓学会専門医制度認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本血液学会認定血液研修施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本神経学会専門医教育施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院</p> <p>日本感染症学会専門医研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>ステントグラフト実施施設（胸部）</p> <p>ステントグラフト実施施設（腹部）</p> <p>日本内分泌学会内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本内分泌・甲状腺外科学会専門医制度認定施設</p>

(27) 市立東大阪医療センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・東大阪市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が東大阪市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は 10 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2014 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2014 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、地域救急医療合同カンファレンス、循環器研究会、消化器病症例検討会；2014年度実績20回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のほぼすべての疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 10 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2014年度実績5演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>市川 稔（循環器内科参事部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>東大阪市立総合病院は、大阪府中河内医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 （常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名</p>

	日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 3,068 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 993 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	わめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など

(28) 東大阪病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内に研修に必要なネット環境を整備しております。 ・常勤職員として労働環境を保障しております。 ・メンタルヘルスは外部契約によるサポートを実施しております。 ・ハラスメント委員会を設置しております。 ・女性専攻医のための更衣室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は 4 名在籍しています。 ・研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・全職員対象として医療安全・感染対策の講習会を年 2 回実施しております。医療倫理は基幹病院と連携し受講しております。 ・基幹病院の C P C に受講を義務付けております。 ・地域参加型のカンファレンス受講のための時間的余裕を付与致します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科 13 領域のうち 6 領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち少なくとも 25 以上の疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修に必要な図書などを整備しています。
指導責任者	<p>北野 均 (副院長)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>地域に根差した医療機関で地域包括ケアシステムでは急性期・回復期の役割を担っております。病診連携・病病連携また介護保険に関連する施設との連携も得意としております。院内には緩和ケア病棟 30 床、回復期リハビリテーション病棟 55 床、透析 50 ベッドを有しており、様々な症例経験ができると考えております。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 4 名 日本内科学会総合内科専門医 4 名</p> <p>日本消化器病学会専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名</p> <p>日本循環器学会専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 1 名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者名 5,759 (1ヶ月平均) 入院患者名 175 (1ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、6 領域、25 疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本緩和医療学会認定研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>など</p>

(29) 兵庫県立西宮病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方公務員法第 22 条第 2 項の規定に基づく臨時的任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています。また公舎等の利用が可能です。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります。希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。 ・院内にハラスメント委員会を設置しました。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、18 時（水曜日 18 時 45 分）まで保育時間を延長する延長保育を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 22 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2018 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 6 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2017 年度実績 10 回・10 体分）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績 41 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 10 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2017 年度実績 4 演題）をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2018 年度実績 11 回）しています。 ・治験センターを設置し、定期的治験審査委員会を開催（2018 年度実績 12 回）しています。 ・臨床研究センターを設置しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>檜原 啓之（ならはら ひろゆき） 【内科専攻医へのメッセージ】</p>

	<p>兵庫県立西宮病院は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪神電車から徒歩1分にあります。兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、チーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています。兵庫県内の連携施設や大阪大学医学部附属病院・兵庫医科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。</p> <p>・本プログラムは、初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して、質の高い内科専門医を育成するものです。医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医 22名、日本内科学会総合内科専門医 10名 日本消化器病学会消化器病専門医 9名、日本肝臓学会肝臓専門医 4名、 日本循環器学会循環器専門医 3名、日本内分泌学会専門医 1名、日本腎臓学会腎臓専門医 3名、日本糖尿病学会専門医 2名、ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 13,342名（1ヶ月平均） 入院患者 10,557名（1ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・ 技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMATカーを含めて超急性期症例を経験できます。また急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本禁煙学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腎移植学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設</p>

(30) 大和郡山病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大和郡山病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署（総務企画課）があります。 ・専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が2名在籍しています ・研修委員会を設置して、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2016年度実績、医療安全3回、感染対策7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域参加型のカンファレンス（2016年度実績 臨床カンファレンス1回、合同カンファレンス週1回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科13領域のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器神経、神経、救急の7領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>藤村 和代（副院長、消化器内科医長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大和郡山病院は独立行政法人地域医療機能推進機構が所管する病院のひとつで、大和郡山市にある地域の中心的な急性期病院です。内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会総合内科専門医 1名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 2名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 9,000名（1ヶ月平均）、入院患者 4,800名（1ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち、7領域、40疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本消化器病学会関連施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>など</p>

(31) りんくう総合医療センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人の非常勤医師（医師免許取得後5年目からは常勤医師）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地外ですがすぐ近くに院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の指導医は14名在籍しています。 ・研修委員会にて基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績14回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的で開催（2015年度実績7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（りんくうカンファレンス、臨床集談会、泉州地域医療フォーラム、りんくう循環器ネットワーク研究会、りんくう糖尿病病診連携の会、泉州COPDフォーラム、泉州消化器フォーラム、南泉州神経フォーラムなど；2015年度実績30回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2013年度実績10体、2014年度実績9体、2015年度実績12体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2014年度実績6演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>倭 正也</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>りんくう総合医療センターは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏および近隣医療圏にある連携施設での内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、さらに、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもった内科専門医になります。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本血液学会指導医 1 名 日本腎臓学会指導医 2 名、日本透析医学会指導医 2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名 日本神経学会神経内科指導医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名 日本集中治療医学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 4,481 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 2,630 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	わめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定医制度教育関連施設 日本消化器内視鏡学会関連認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会連携研修施設 日本救急医学会救急科指導医・専門医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 など